

地方共助社会づくり懇談会in福島

福島の復興に向けた市民活動の動向



コミュニティコーディネーター

鎌田 千瑛美

(1)活動紹介及び自己紹介
震災後の市民活動の役割及び課題



自己紹介

福島県南相馬市出身。

大学進学をきっかけに、東京へ上京。その後、ITベンチャー企業に勤務。東日本大震災と原発事故をきっかけに、フリーランスとして復興支援プロジェクトに参画。

—被災者をNPOとつないで支える合同プロジェクト

—NPO法人ETIC.震災復興リーダー支援プロジェクト

2011年11月に福島女子のコミュニティ団体「peach heart」を立ち上げ、2012年1月に福島県にUターンし、(社)ふくしま連携復興センターの立ち上げに携わる。

2012年7月～2013年6月まで、事務局長兼理事を務める。

2014年7月以降、コミュニティコーディネーターとして、

福島県田村市を拠点に、「NPO法人蓮笑庵くらしの学校」「女子の暮らしの研究所」など、複数プロジェクトへ参画中。



東日本大震災と福島第一原子力発電所事故

福島の若い女性たちが 本音で繋がる場づくり

「18歳以上ママ未満の女子たち」



GIRLS
LIFE
LABO

女子の暮らしの研究所

peach heart

聞こえてきた声

仕事・友達・恋愛・放射能への悩み。

⇒3年が経ち、変化している。

「フォトボイス」前向きな声を発信。

女子パワーで「共感の輪」が広がる。



「カワイイ」をきっかけに、ストーリーを
発信する。福島と繋がる。カタチを創る。



「ふくいろピアス」



「omoi no mi」

せんきょ CAMP ふくしま

福島県知事選挙
福島県のこれからは県民の誰もが
主体的に参加出来る権利

「GOGO★せんきょ」
「LABO LABO ラジオ」
「せんきょ割」で得しよう♪
「せんきょの話をしよう♪」
若者を中心に、政治を身近に。

結果

投票率：45.85%（前回＋3.43%）

⇒過去2番目に低い投票率

聞こえてきた声（一部抜粋）

諦め「どうせ誰に入れたって同じ。やっても無駄。」

無関心「自分には関係ない。」

無知「県知事を知らない。違いが分からない。」

否定・対立「絶対〇〇の政策は許せない」

(2)これからの共助社会のあり方



無関心や他人事から、
自分事へ考え、行動する人たちを
どう増やしていくか。

誰もが気軽に互いの価値観を
話し合い、繋がりあえる対話の場を、
どう創っていくか。

いろいろな価値観があるなかで、
どう多様性を認めあう社会を築いていくか。



NPO法人蓮笑庵くらしの学校

震災後の自分たちの足元の「暮らし」を見つめ直すこと、共に学び合える繋がりから、
多様なコミュニティの形成と
実践の仕組みづくりを目指している。



これから目指したい姿。

足元にある日常。当たり前前の「暮らし」を
衣・食・住の福島らしい文化から見つめ直す。「便利」で「依存」の暮らしから、「ていねい」で「自立的」な暮らしの実践と継続・発展、コミュニティや「友達」の輪を拡げていくことを目指したい。

福島からこそ、チャンスとして挑みたい。

「未来を自分たちで創る社会へ」

可哀想・大変な「FUKUSHIMA」
イメージを払拭していくためには、
1人1人が向き合う覚悟と、次の世代に繋ぐための努力
が必要では??

⇒ただし、**持続性・巻き込み力が課題**である。

⇔「面白そう」「楽しい」「自慢出来る」「癒し」などの
キーワードで、若者や地域の人たちを巻き込む仕掛け
を創る。

「伝わらない声に耳を傾ける・共に考える」

復興支援活動で気づいたこと。

「被災者はだれか？」

⇒富岡町の〇〇さん、飯館村の〇〇ちゃん。

顔の見える繋がりからの、共感力、共助の心。

震災をきっかけに出来た水俣との繋がりも然り。

まだ見ぬ友人と出逢う。

声なき声を聴く努力と、一步の歩みよりから、

友達になる。

これからの社会におけるセーフティネットの

あり方を、一緒に考えていきたい。